



# コンテンツ管理システムの最新トレンド アジャイルCMSとは？

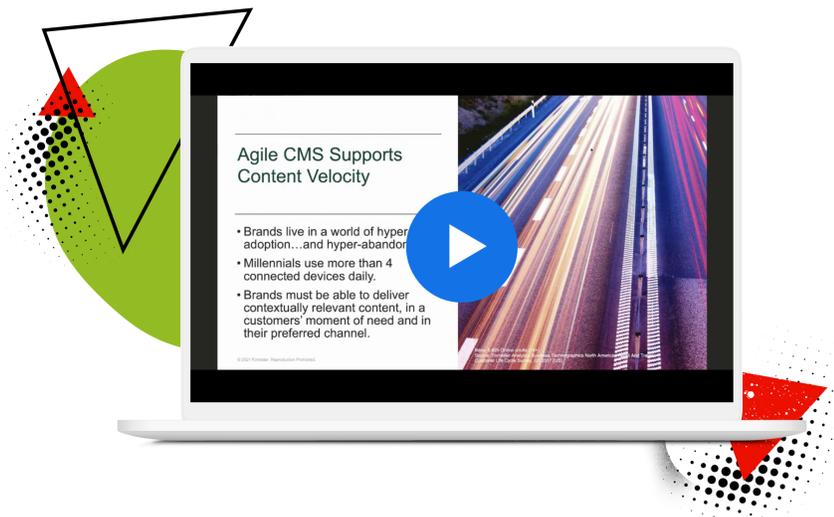
CMS(コンテンツ管理システム)は、比較的以前からよく知られているテクノロジー領域ですが、デジタル時代を迎えて、さらに進化しています。そのCMSの最新トレンドにあたる「アジャイルCMS」とは何か、米国リサーチ企業ForresterのNick Barber氏に解説してもらいました。

1. コンテンツ消費量の増加にともない、コンテンツの制作効率化と再利用が課題となっています。その鍵とされるキーワード「コンテンツのアトマイゼーション(原子化)」とは何でしょうか？

コンテンツのアトマイゼーションとは、コンテンツを可能な限り小さな要素に分解し、新しいコンテンツや異なるコンテンツを再構築できるようにすることです。アトマイゼーションされたコンテンツは、積み木の箱のようなものだと考えてください。その箱からさまざまな要素を取り出して、好みのものを制作するのです。その実現には、AI(人工知能)が欠かせません。そうした要素のメタデータをAIに生成させることで、膨大なコンテンツを適切に組み立てることが、容易に実現できます。

2. これまでのパーソナライズは、ある程度の大きさの粒度が想定されていました。それを「一人」の単位にまで精緻化し、かつ規模を問わず即座に対応するとしたら、どのようなテクノロジーの選択肢があるでしょうか？

まず取り組むべきは、コンテンツのあらゆる構成要素を「コンテンツハブ」に一元化することです。コンテンツハブとは、さまざまな関連システムから利用することのできる、コンテンツのリポジトリです。多くの場合、コンテンツハブには、DAM(デジタルアセット管理)システムが利用されます。DAMは、アセットを大規模に管理する点において、他に類を見ないシステムです。DAMは、コンテンツテンプレートおよびコンテンツモデルを保持する「アジャイルCMS」に接続されます。アジャイルCMSとは、膨大なコンテンツ要素をオムニチャネルへと配信し、それを関係者なら誰でも利用できるようにしたCMSです。これにより、コンテンツ管理の生産性と迅速性が劇的に向上します。この、DAMを含むアジャイルCMSこそが、パーソナライズされたコンテンツの配信を、規模を問わずに実現するためのテクノロジーなのです。



### 3. 柔軟で分業しやすい実務担当者向けCMSと、特定のエクスペリエンス構築スキルを備えた開発者向けのCMS、それぞれのニーズに対し、企業はどのようにバランスを取ったらよいでしょう？

重要なのは、開発者と実務担当者がそれぞれの役割を果たすのに十分な能力を備えたCMSでしょう。開発者は、エクスペリエンスの設計、コードの記述、プロダクトの提供などに注力すべきです。実務担当者は、デジタル体験を豊かにするコンテンツの構築に注力できる必要があります。実務担当者がセルフサービスでコンテンツ編集できるCMSならば、そのような役割分担が可能となるでしょう。小さな変更であれば、開発者にコーディングを依頼せずに、実務担当者が自ら制作するのです。

### 4. アジャイルCMSは、どのような業界の企業にとって有利でしょうか？

アジャイルCMSは、ブランドや企業が自社のデジタルペルソナを世界に発信するために利用するテクノロジーで、デジタルプレゼンスを有するあらゆるブランドにとって必要です。ワークフロー機能と密接に連携するDAMによって、実務担当者が共同で反復的にコンテンツを制作することを促進します。このアプローチにより、リッチメディアと双方向性を活かした、インパクトのある魅力的な体験を促進することができます。小売業界では、COVID-19の世界的なパンデミックにより、デジタルファースト戦略への転換を迫られ、目まぐるしい変化の中で顧客体験管理（CXM）の俊敏性が課題となりました。アジャイルCMSは、オムニチャンネル配信にも効力を発揮します。これは、従来のサイトやモバイルアプリに留まらず、さまざまなチャンネルを強化するためにCMSを利用する小売企業にとって、特に重要となります。製造、金融、メディア&エンターテインメント、旅行&観光など、さまざまな業界の企業が、カスタマージャーニーの適切な段階で的確なコンテンツを正しいチャンネルに配信する、より効率的な手段としてアジャイルCMSを採用し、成果を上げています。

### 5. アジャイルCMSは今後、どのように進化し、どのような価値を生み出すのでしょうか？

アジャイルCMSは、システム連携が引き続き重要な優先事項となると考えられます。企業は、さまざまなテクノロジー基盤を利用していますが、包括的に顧客を把握すること、そしてコンテンツやデータをシステム間で相互利用することができなければ、膨大な顧客に対して臨機応変に対応できません。また、自社ならではの顧客体験を、実務担当者が自らすばやく構築し、提供する、という新たな時代へと踏み出すべきです。そのためには、ローコード開発、ノーコード開発が、ますます重要になるでしょう。

大規模かつ俊敏なエクスペリエンスの構築と配信に、CMSとDAMの能力を組み合わせたAdobe Experience Managerが、どのように役立つのかをご確認ください。

今すぐ見る

